（1）　昭和40年11月1日

いわむろ

発行所　岩室村役場　No. 43
印刷所　巻・北洋印刷KK

農夫症に注意しましょう

原因……肉体的過労（腰をまげる仕事），気がね，栄養不良，不潔な環境，寄生虫，冷え，農薬の害など。
症状……肩こり，腰痛，手足の痛み，しびれ，夜間多尿，息切れ，不眠，めまい，腹はりなど。これらの症状は現われても放っておくと，色々の病気を誘発する。
予防……上に書いたような原因をとり除くことが大切。例えば，農民体操，暖房の工夫，白米をたべる時に魚，肉，油をたべる。20〜40才の間に症状が出たら軽いうちに治療したり予防して重くなるのを防ぐ。

十四日は県知事選挙の投票日

○発行所
住所
氏名

異常天候の中の稲作を省みて

巻地区普及所長　西村欣策

一、はじめに

今年は、冷害の年次に当るという前ぶれと、苗代の頃からの異常天候で、稲作の出発頃は、どうやら凶作は間違いないと思われた。

昨年の北海道の冷害もあって、今年の作柄は、国を挙げての関心事であったが、その稲作も、私たちの近辺では、平年作を上回るということで、取り入れも終った。

連続して出て来た異常気象の中で、精いっぱい生きようとする稲と、これを育てようとする人間の力とが、今年の作柄となって現われたのであるが、これからの稲作に、沢山の問題点を残し、反省と技術の改善の方向を教えてくれたようである。

二、稲の育ち方

(一)苗代時代

四月の気温は、苗が葉を伸ばすことの出来る日は、八日位しかなかったようだ。

そんな天候の中で種が播かれたので、紙やポリを取ってから、全く伸びることが出来ない状態が続いて、中には、管理を間違えたため、苗を腐らせた人たちも沢山あった。

種まきの早晩と関係なく四月の末には、どこの苗も四枚の葉しか出していなかった。そこで、二ツの点について反省が必要である。

・稲は、ごまかしも、間違いもしない、法則通り育ち、生長する。

十度（摂氏）以下では生長しないので、早まきの限界はここから割り出せる。

・根を大事にしない人たちが苗をくらせた。

除紙後の管理は水より外に手だてがない。所が温度の一番下がる時期（朝の四時頃）に、苗代では一番水が少ない。

天候は五月に入ってからやや恢復したけれども、苗の立ちおくれは直らず、小さな若苗で田植がなされ、しかも六月に入って終ったところもあった。

・田植後の稲

今年の稲作で、一番恵まれたのは、六月の気温が高かったということである。

稲の生育がおくれると作り方が難かしくなるし、収量も不安定になる。

そこで田植後の立ち上がりが一番心配であるが、今年は、野枯れも少なく、生育は六月中に急速に進んだ。

しかしもともと、出足がおくれていたため、分けつだけが多く、草丈や体内の栄養は、充実されなかった。

ところが、七月に入ると再び異常な低温と、日照不足に会い、越路早生などの極早生は、栄養の充分でないままに、穂を作らなければならなくなり、小さな穂と、小さな籾で出穂をしてしまったのである。

しかも七月十二日には、最低気温十六度という状態で、極早生の生長に障害寸前の気象となった。

七月下旬から天候も恢復して、八月一杯極めて順調だったので、極早生も、小さい籾の中に一杯米が出来た。

日本海から、中生の初め位の品種が、最もよい気象条件となった。

昼は高温、夜は冷涼ということで、米の稔りはドンドン進んだのである。

そうした中で、九月に入ると、再び雨と冷気が続いて、晩生のみのりは阻害される結果となった。

ここで稲の育ち方の中で考えられることは、次の問題でないだろうか。

・稲が増収するには、細い栄養の足りない茎を作ってはだめだということで、茎を太く、穂を大きく、籾も大きいという稲を作ること。

・生育が乱れて、穂の揃わない稲は、分けつの本数が多くても、増収にはならない。

増収は、いかなるときでも穂の揃った形で育てた稲につく。

三、稲の生育と障害

稲の生育を乱すものにはいろいろな要因がある。前段の天候の外に、病害虫も大きい。

今年の病害虫の発生は、天候の異常さと同じように大きな変り方もあった。

冷害と「イモチ」病という問題は、人間の力の限りを尽したという程、熱心に行なわれたので、葉いもちも、頸いもちも喰い止め得たようである。

もんがれ病や、根ぐされから来る葉の枯れ上がりも少なく、一般に稲は健康な形で、収穫期に入ったものが多く、泥炭地帯や、砂質地帯でも相当の収穫を上げることが出来た。

ただ、八月に入ってからの高温で、白葉枯病が発生したため、減収して終った人たちも多かった。

幸い水害も少なく台風もまた大きな被害とはならなかったことは、障害の少ない年といえるようである。

それで、次のようにいえるのでないだろうか。

・稲は、葉や根を痛めないこと、刈取りまで生きた葉の多い程、収量は安定するので、栽培上の「ポイント」としたい。

・根ぐされ地帯を豊作にするには、地温を上げない工夫が大事だということがはっきりした。

四、おわりに

冷害の年は、平場では豊作になる、という声も、昭和二十八年の冷害年次の際を考えていったものだが、今では、方々で、農協への出荷が、史上最高だという声がある。

個人の成績の中でも、十アール当り平均十俵以上も取った、という人たちもいて、嬉しい秋に終った。

この一年間、心のつかれる思いで、作り上げた冷害年次への努力が、稲作りの今後に、大きな教訓となったことだけは、むしろ尊いものとなったようである。

村の人口は九、五三七人

十月一日現在で行なわれた国勢調査の村の人口は、九、五三七人で前回の調査（三十五年同期）よりも七一四人減少していました。

昭和35年，40年国勢調査，人口，世帯数の比較速報　岩室村

区分 / 地区名	人口 35年	人口 40年	人口 増減	世帯数 35年	世帯数 40年	世帯数 増減
岩室地区	5.199	4.935	△ 264	979	990	11
間瀬地区	1.711	1.323	△ 388	421	379	△ 42
和納地区	3.341	3.279	△ 62	647	677	30
計	10.251	9.537	△ 714	2.047	2.046	△ 1

㊟ 岩室地区に大成建設関係　26世帯　男64　女39　計103含む